

# 障害者支援セミナー 「どうしたらいいの 高次脳機能障害編」

社会福祉法人 明光会 障害者支援セミナー実行委員会  
〒421-1211 静岡県静岡市葵区慈悲尾 180

## 助成事業の概要

令和4年3月29日(火) 午前10時～正午、開催しました。

実施目的は以下の通りです。

「高次脳機能障害」については支援機関の増加や家族会の活動の活発化で障害についての基礎知識や支援の方法を学ぶセミナーのような機会は増えてきたと思います。しかし障害当事者や家族からすると障害名を聞いた時にまずどうすればいいのかがわからなかったり障害の特性を理解できなかったりして支援機関に繋がるのが遅れることが多いのが現状です。

そこで今回は静岡市における高次脳機能障害の相談の実情、高次脳機能障害と聞いた時にどうすればいいかを高次脳機能障害に詳しい城西クリニックの杉山育子副院長とのトークセッションと明光会相談支援部門の職員が演じる劇によって明らかにしていこうとするものです。

## 事業の成果

「障害者支援セミナー」当日は新型コロナウイルスの蔓延防止の観点から集合研修とはせずZOOMを利用してのオンライン開催としました。

目に見える成果としては今後の展開によって出てくるものと思われませんが支援機関としてはいろいろな気づきがあったとおもいます。準備段階で城西クリニックの担当者との打ち合わせのなかで相談機関が医療機関との関係を普段から築いておくことの重要性、医師が普段どうしているのか、

あらためて気づかされた思いがしました。また劇のシナリオを作成する段階では高次脳機能障害と診断された当事者や家族の行動の特徴や受容の段階によっての心の動き相談が重要だと気付くまでの「どうすればいいの?」という不安など普段の相談支援からはなかなか気づきにくい具体的な場面を想像することができたことは大きな成果だったと言えます。演ずる段階では当事者、家族、医師、支援者それぞれの立場になって考えながら演じなければならぬためそれぞれどういう気持ちなのか、どうしたいと思うのか、どういうことが不安なのかよりいっそう理解しようとする気持ちになりました。相談の場面では普段から「利用者相談者、家族の立場に立って」とよく言われることですがなかなか難しいことです。役割を演ずることがこれほどリアルに「利用者、相談者、家族の立場や気持ち」を感じることができるのか驚きでした。

相談支援機関や相談担当者にとってこのような経験ができたことは今後の相談の場面で生きてくるものと思います。相談者や家族にも良い結果をもたらすことができると思います。

## 成果の広報、公表

「障害者支援セミナー」開催当日は静岡新聞社の取材があり翌3月30日付け朝刊(静岡中部版)にて広く報道されました。高次脳機能障害の支援について静岡市ではどのようにおこなわれているのか、相談につながるまでにはどういう過程を経ているのか多くの市民に紹介されたものと思っ

ています。今後の成果の公表としては主催法人である社会福祉法人明光会のホームページで紹介を行います。今回は ZOOM での開催となったため高次脳機能障害の支援機関を対象として当日の内容（録画）をオンラインで配信を行い多くの支援者にご覧いただく予定であります。一般市民を対象としたより広範囲の配信については城西クリニック杉山医師の承諾を得られれば行ってきたいと考えています。

## ■ 今後の展開

「高次脳機能障害支援普及事業」は、今年度も静岡県から委託を受けている事業ですので引き続きコンパス北斗で相談に乗っていくこととなっています。相談員にとって今回のセミナーで当事者や家族、支援者を演じたことで従来よりなお一層当事者や家族の立場に立った相談支援ができるようになると思います。またこの助成事業をきっかけに城西クリニックだけでなく市内の医療機関とも連携を構築できるように行動していきたいと思っています。

今まで支援事例を文書で記録することはしていましたが今回劇のシナリオを作ったり演じたりすることでその事例についてより深く理解することができる、当事者や家族になりきることで文書では表現しきれない不安感を理解することができることに気が付きました。そこで今後は好事例や困難事例についてもシナリオを作り役割を演じよりリアルな劇としても残しておき相談担当者の教材として活用していきたいと思っています。

静岡市圏域で行っている高次脳機能障害の勉強会などでも資料の1つとして活用を考えていきたいと思っています。